

蓮沼海浜公園 再整備に向けた基本方針



令和5年3月

千葉県

県土整備部 都市整備局 公園緑地課

目 次

第1章 公園の概要及び公園を取り巻く現況・課題.....	1
1 公園の概要.....	1
2 公園の課題.....	1
3 社会動向.....	2
第2章 公園再整備の基本方針.....	4
1 再整備の視点.....	4
2 基本方針のテーマ.....	4
3 再整備の方向性.....	5
第3章 公園再整備の方向性の具体的取組.....	6
1 海辺の活用.....	6
2 レジャー・アクティビティの充実.....	7
3 賑わい創出.....	8
4 豊かな自然・憩いの空間創出.....	9
第4章 再整備後の公園のイメージ.....	10

第1章 公園の概要及び公園を取り巻く現況・課題

1 公園の概要

蓮沼海浜公園は、国の「レクリエーション都市構想」に基づき、大都市圏等から生じるレクリエーション需要を充足するために整備された県立公園であり、マイカー需要の増加に伴う週末レジャーの目的地として大いに活用され、現在に至っている。公園の特徴としては、白砂青松や隣接する海などの豊かな自然や、九十九里浜に沿い南北約4kmに渡る細長い形状で、38.3ヘクタールもの広大な敷地を有していることなどが挙げられる。公園内には、県内最大級の屋外プールであるウォーターガーデンや、36ホールを有するパークゴルフ場、各種遊具施設がある子供の広場など、子供からお年寄りまで幅広い年齢層を対象としたレクリエーション施設を有しており、娯楽の場として多くの県民に親しまれているが、開園から40年以上が経過し、現代の多様なレクリエーション需要に対応することが求められている。

2 公園の課題

(1) 施設の老朽化

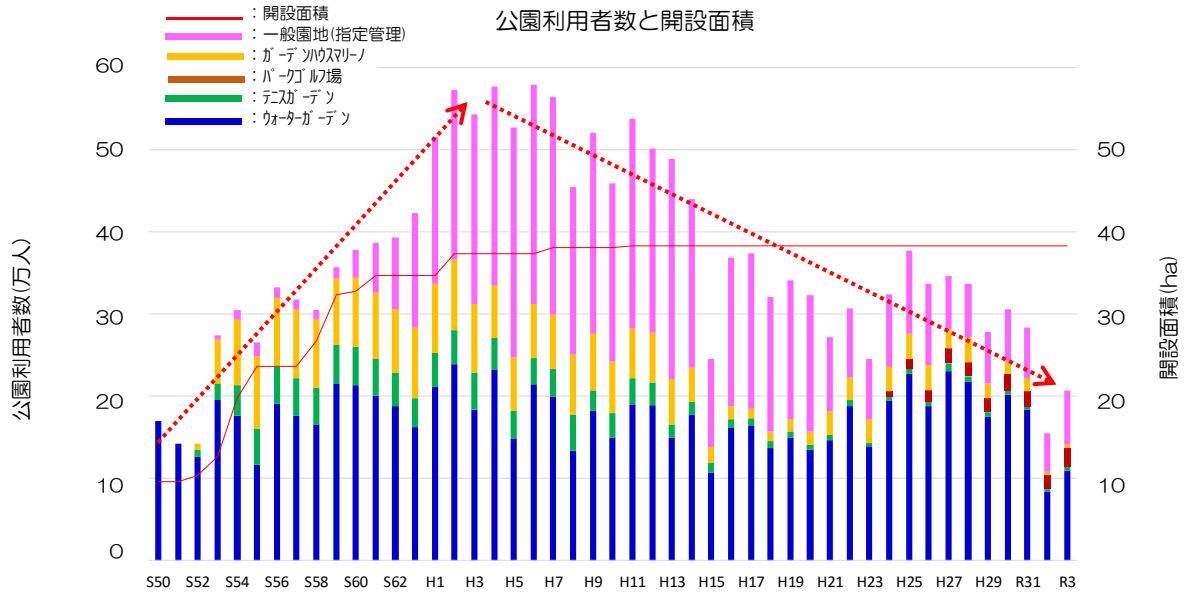
昭和50年の開設から約46年が経過したことにより、各種施設の老朽化が進行している。平成29年度の長寿命化計画では、指定管理及び管理許可対象施設の全施設を再建築する場合に必要な費用を耐用年数で除して、令和4～23年度の20年間で必要となる維持管理・改修費用を約82億円と算出している。

このように、公園を今後も維持していくためには多額の費用が必要になると見込まれていることから、県の財政負担を軽減しつつ、新たな取り組みが必要となっている。

(2) 利用者数の減少及び季節変動

蓮沼海浜公園は、公園開設以来、順調に利用者数を伸ばしてきたが、平成3年頃を境に減少に転じ始めた。その後、ウォータースライダーや各種遊戯施設等の新規施設を導入してきており、公園の利用者数は年間約30万人前後で推移してきたが、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で利用客が減少し、令和3年度の利用者数は約22万人となっている。

また、年間を通した利用傾向としては、夏季のウォーターガーデンに利用が集中しており、通年型集客が達成できていないことから、夏季以外の季節における利用方法についての工夫が求められている。



(3) レクリエーション公園としての機能と広域からの集客

蓮沼海浜公園は、「レクリエーション都市構想」に基づいて整備されたレクリエーション公園¹であり、県内のみならず、より広域のレクリエーション需要を充足する役割が求められる。一方、現状では、ウォーターガーデンの利用者の6割以上、パークゴルフ場の利用者9割程度は県内居住の利用者²であり、より広域からの集客も実現していくことが望ましいと考えられる。

また、広域からの集客に当たっては、公園を訪問することに目的性を持たせ、公園内を満喫できるような仕組みとすることが望ましいと考えられる。そのためには、南北約4kmに渡る細長い形状を移動するための新たなモビリティの導入のための園路整備等を工夫することにより、公園全体の回遊性を向上させることが重要である。併せて、初めて公園を利用する方にとっても使いやすい施設とすることが求められている。

3 社会動向

(1) 都市公園に関する方向性

平成29年の都市公園法改正により、都市公園に優良な民間投資を誘導し、そこから得られる収益を公共還元することにより公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の再整備や公園利用者の利便の向上を図るため、民間事業者が設置する飲食店、売店等からの収益を、公園施設の整備・更新へと充てる仕組みである公募設置管理制度(Park-PFI)が創設された。

また、令和4年10月に取りまとめられた国土交通省の「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会」においては、新たな時代における都市公園の意義・役割として、都市公園が個人と社会のWell-beingの向上に向け、地域の課題や公園の特性に

¹ 蓮沼海浜公園は、国の「レクリエーション都市構想」に基づき計画されたものである。新全国総合開発計画（昭和44年閣議決定）の一環として、大都市圏その他の都市圏から生じるレクリエーション需要を充足するため、選択性に富んだレクリエーション施設を官民一体となって整備しようとしたものであり、昭和45年12月に建設省によって決定された「レクリエーション都市整備要綱」に基づき昭和47年から整備が進められ、昭和50年に開園し現在に至る。

² 千葉レクリエーション都市開発株式会社所有データに基づく分析

応じ、ポテンシャルを更に発揮すべきであるという方針が示された。

(2) 観光やレジャーに関するニーズの多様化

近年、一人一人の価値観が多様化することにより、レジャーとして取り込まれる活動の範囲は著しく広がってきた。レジャー白書(公益財団法人日本生産本部余暇総研発刊)においても、レジャー種目で参加人口が多い種目は時代と共に変化している。蓮沼海浜公園においても、利用者アンケートではサウナやグランピング施設等、近年のトレンドを捉えた施設に関する要望や、「インスタ映え」するような写真スポットに関する要望が上がっている。

また、従来の観光・旅行では、新たな土地を訪れて、その地域の建物や有名スポットに足を運ぶという「見る」ことが中心であったが、近年は1箇所に滞在して静養やレジャーを「体験する」滞在型の観光・旅行が主流となりつつあり、ウェルネス³体験やスポーツツーリズム等、よりテーマ性が高い旅行が人気になっている。

(3) オープンスペースとしての都市公園の価値の向上

様々な社会経済状況の変化がある中で、公園は居心地が良く誰もが快適に過ごせるオープンスペースとしての空間づくりを進めることが重要となっている。特に、新型コロナウイルス感染症を契機に、公園等のオープンスペースは過密を避けながら様々な活動を行うことができる場として利用ニーズが高まっており、こうした変化は、アフターコロナにおいても継続していくことが想定される。

³ ウェルネスとは、従来の「健康」とは区別する目的で米国の公衆衛生医が提唱した、感情・身体・社会・精神・知性・職業・環境にも配慮した、より総合的・広範な視点でとらえた健康観

第2章 公園再整備の基本方針

1 再整備の視点

蓮沼海浜公園が抱える課題を踏まえ、公園の活性化を図るためには、地域住民等による既存施設の利用の継続・促進に加えて、現代のニーズに沿う新たな集客施設等の導入を伴う再整備を行い、年間を通じて、広域から訪れてもらえるような公園を目指すことが必要となっている。

そこで、県外からの認知度も高い「九十九里浜」に位置していることから、海に近く自然が豊かであるという地理的特徴を最大限に生かした再整備を行うことで、県民に親しまれるだけでなく、県外からも「滞在したくなる癒しの空間」として誘客することが可能な魅力ある公園となることを目指す。また、千葉県及び山武市の各種計画における方向性に従い、再整備後も引き続き自然の景観を保全し、既存施設の更なる活用も含め、スポーツ・レクリエーション機能を充実させていくことで「体験」ニーズを充足していくことを目指す。

このように、癒しの空間の実現やレジャーを充実させることにより、蓮沼海浜公園を遠方からでも訪れたいくなるよう「デスティネーション」化させ、首都圏広域からの通年集客の実現を目指す方針とする。

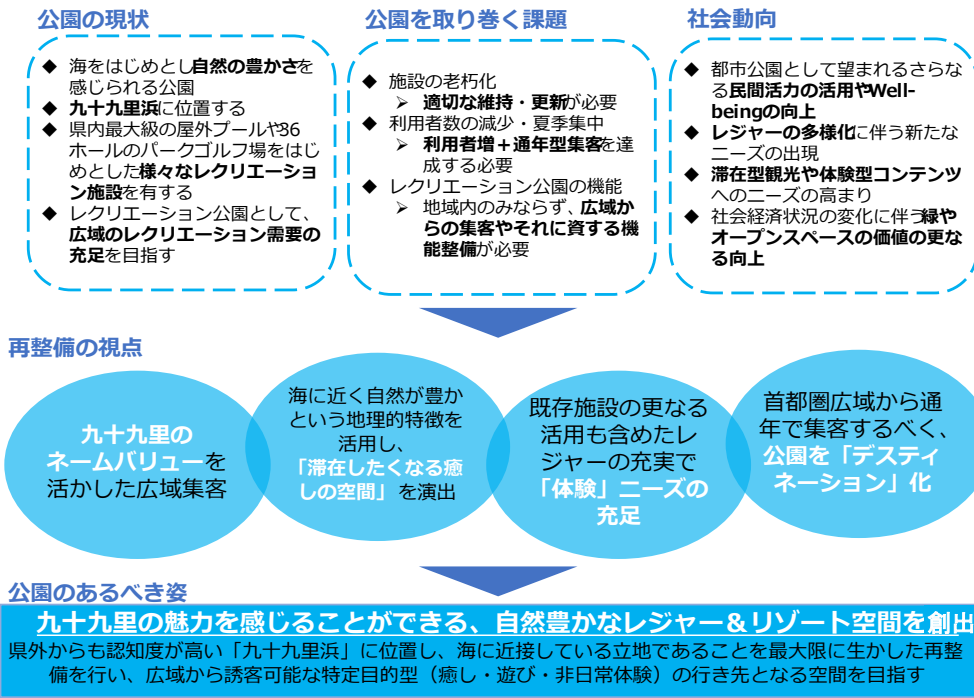
また、これらの方針の実現のためには、民間活力による新たな都市公園の整備手法などを活用し、公園の再整備や活性化を推進する。

2 基本方針のテーマ

上記再整備の視点に従い、蓮沼海浜公園は、県外からの認知度が高い「九十九里」のブランドや海に近接した土地であることを最大限生かした再整備を通じて、広域から誘客可能な特定目的型（癒し・遊び・非日常体験）の行き先となる空間を目指す。

そこで、これからの蓮沼海浜公園の基本方針のテーマとして、以下を掲げる。

九十九里の魅力を感じることができる
自然豊かなレジャー&リゾート空間を創出



3 再整備の方向性

蓮沼海浜公園のあるべき姿を実現するため、次の4つの方向性に従い、再整備を進めていく。

(1) 海辺の活用

九十九里の資源である海の魅力が存分に感じられるように、海や浜辺を活用する。また、海との親和性がある空間を活かし、海と公園の一体感を創出する他、ビーチでのイベントを開催する等、ソフト面の取組も行う。

(2) レジャー・アクティビティの充実

海・公園・保安林を活かし、人々が集うためのバラエティに富んだレジャー・アクティビティ施設を導入する。既存施設であるウォーターガーデンの施設の充実を図ることで集客力を向上するとともに、海、浜辺、保安林が一体となった空間の創出も目指す。

(3) 賑わい創出

九十九里ブランドを活かし、利用者等が日常を忘れゆっくり楽しむことができる、九十九里を代表するような場の創設を目指す。都内を含む関東圏や成田空港利用者等呼び込み、賑わい空間を創出することで、交流の場となるパークカルチャーを演出する。また、九十九里ブランドの構築のために必要となる地域との連携も推進する。

(4) 豊かな自然・憩い

豊かな自然環境を活かし、ウェルネス体験ができる空間を創出する。また、地元の人々からも愛される、自然を感じられる憩い空間も創出することを目指す。

第3章 公園再整備の方向性の具体的取組

1 海辺の活用

海辺の活用の具体的な取組として、以下のような取組が考えられる。

(画像は全てイメージ)

(1) 海が見える空間の整備

九十九里の海岸沿いである立地がより感じられるよう、九十九里の美しい海を見渡せるような空間や、公園利用者がゆったりと海を眺められる空間を創出していく。



(2) 公園と海岸のアクセス改善

公園内から海岸までの道を居心地がよく、歩きたくなる空間として整備する。また、保安林を通り抜けると海が眼前に広がる景色を堪能できるような演出をするなど、雄大な自然を最大限活用していく。



(3) 浜辺・海との一体的な空間創出

海沿いという立地を生かし、公園と海が繋がった一つの空間であると感じられるよう、植栽や眺望スポット整備の工夫をする。また、ライトアップ等の施策も行い、一体的な空間として感じられるように演出する。



(4) ビーチ空間の活用

日常の喧騒から離れ、蓮沼海浜公園周辺の豊かな海辺空間に、触れて、憩うことで、心を整えられる癒しの空間を創出する。



2 レジャー・アクティビティの充実

レジャー・アクティビティの充実の具体的な取組として、以下のような取組が考えられる。(画像は全てイメージ)

(1) 人が集うファシリティの設置

レジャーの多様化が進んだ現代のニーズに沿う、人々が集うためのバラエティに富んだレジャー・アクティビティ施設を導入する。

(写真は立体アスレチック例)



(2) ウォーターガーデンの施設充実

集客力が高いウォーターガーデンの利用者数を更に増加させるために、新たな施設の充実を図る。



(3) 海・浜辺・保安林が一体となるようなアクティビティの導入

公園内の資源を活用したアクティビティを導入する。

(写真はジップライン、ホーストレッキング例)



3 賑わい創出

賑わい創出の具体的な取組として、以下のような取組が考えられる。

(画像は全てイメージ)

(1) 宿泊施設の充実

利用者が日常を忘れてゆっくりと楽しむことができるリゾート空間となるような宿泊機能を創出する。



(2) 賑わい空間の創出

都内を含む関東圏や成田空港利用者等呼び込むとともに、地域と連携し、新鮮な食材を楽しめる飲食エリアなどの賑わい空間を創出することで、交流の場となるパークカルチャーを演出する。

(上の画像はシチリアの飲食店エリア)



(3) 地域との連携

九十九里ブランドを構築するため、地域との連携・協力を強化し、賑わい創出に向けて推進していく。



4 豊かな自然・憩いの空間創出

豊かな自然・憩いの空間創出の具体的な取組として、以下のような取組が考えられる。
(画像は全てイメージ)

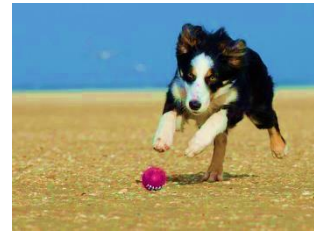
(1) 憩い空間の創出

日常の喧騒から離れ、海・浜辺・保安林などの豊かな自然環境を見て、触れて、憩うことで、心を整えられる癒しの空間を創出する。また、ヨガ等のウェルネス体験に加え、温浴施設などのリラクゼーションを目的とした場の創出を図る。



(2) ペットと憩える空間の創出

ペットと一緒に豊かな自然を楽しめる空間を創出する。



(3) 遊歩道の整備・新たなモビリティの提供

公園が細長い形状であることを踏まえ、海を身近に感じながら、散歩やランニングが楽しめるような遊歩道を整備する。併せて、回遊性向上に資する新たにモビリティの導入を検討していく。

(写真はオーストラリアのビーチウォーク)

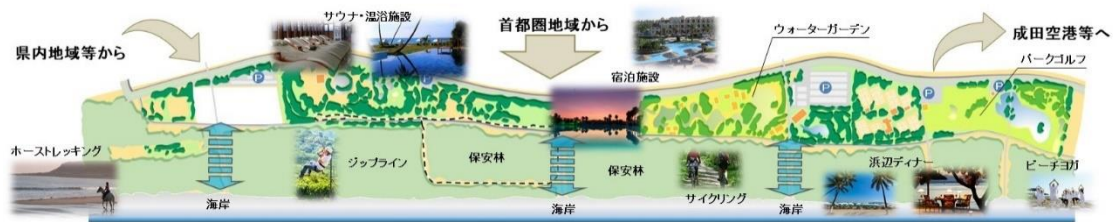


第4章 再整備後の公園のイメージ

九十九里を代表するリゾート拠点となるよう、エリア全体で統一感のあるブランドイメージを構築しつつ、人を集めるためのサービス提供に必要な基盤となるファシリティを整備していく。

蓮沼海浜公園のあるべき姿を実現する4つの方向性を基に、今あるウォーターガーデン等を活用しつつ、現代のニーズに対応した新たな発想による施設の導入が求められている。

【公園の再整備内容のイメージ】



【公園再整備のイメージコラージュ】



【公園再整備のイメージパース】



千葉県
県土整備部 都市整備局 公園緑地課